

令和6年度 学校評価(自己評価)

学校法人 耕心学園
 幼保連携型認定こども園
 伊万里幼稚園

1. 本園の教育目標

ひとりひとりの伸びる力を大切に、幼児の主体的な活動を通し、基本的な生活習慣を身につけながら、「体の力」「学ぶ力」「心の力」「生きる力」が身につくように毎日の園生活を充実させることを目標にしている。ヨコミネ式導入。	
体の力	<ul style="list-style-type: none"> ・走る、柔軟を通して競争心を育て、全力で取り組む姿勢、向上心、体力を培う。 ・日常生活にない運動（複雑で少し難しい運動）を行う。
学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・「理解力(読解力)」「思考力」「洞察力」をつけるために「読み」「書き」「計算」を行い、基礎学力を身に付ける。
心の力	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で考えて行動」「あきらめない」「いやなことから逃げない」「挑戦する」「思いやりの心」「友だちを大切にする」など。
生きる力	<ul style="list-style-type: none"> ・園での経験を通して学び、自立した人に育てること。

2. 本年度、重点的に取り組む目標

①教育に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・縦のつながりをしっかり持って、0歳児から5歳児までトータルした教育を行う。 	B
②安全に関して (危機管理)	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全計画」「保健計画」「避難訓練計画」等に基づき、日々の生活の中で意識して行い、安全管理を強化していく。 	B
③環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児の関わりができるような環境構成をする。 ・異年齢児の交流ができる時間をとり、互いに刺激になるような活動を入れる。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・園外に出たり、他園の園児を招いたりして、他園との交流を持ち、小学校で出会う新たな環境に備える。 	B
④地域・社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や主な施設の場所・交通機関・行事などについて理解し、利用するように努める。 	B

3. ヨコミネ式に関して (東園舎職員のみ)

①学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・こどものレベル等に合わせ、次の段階へ、いかに興味を持たせうまくやる気を引き出す。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりに合った教材を準備し、やる気スイッチを探す。 ・特別支援の必要な子等の個別指導。 	B	
	読 み	<ul style="list-style-type: none"> ・レベルに合った教材(絵本等)を準備する。 	B
	書 き	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の持ち方、書く時の姿勢をしっかり身に付けさせる。 ・こどもの筆圧に合わせ、鉛筆6B～2Bの調節をする。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に書く事や書き順に気を付けさせ、褒めながら書く事が好きになれるよう配慮する。 	A
	計 算	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に理解ができてから次の段階に進む。 	A

②体操について	・ 3歳児から5歳児まで、トータルで考え、基礎からしっかり身につけさせる。	B
	・ 色々なことに挑戦する気持ちを大切に、挫折や試練を乗り越えられるような援助をする。	A
	・ 次の段階へ意欲を持って取り組めるように配慮する	A

4. 保護者との連携

① 園生活について	・ 定期的にかがやきノートや連絡帳（表）、クラスだより等で園での様子を知らせる。	A
	・ こどもたちの様子を保護者に見てもらう機会をつくり、成長を感じてもらう。	A
	・ 特別に知らせたいこと（こどもの成長に関する）等は、積極的に知らせて行く。	A
② 家庭での様子を知る	・ かがやきノートや連絡帳（表）、電話等による園児の様子を知らせてもらう。	A
	・ 保護者が知りたいこと等電話での相談を受ける。	A

5. 職員の保育の質の向上

① よりよい保育の為に	・ 定期的な専門の指導を受け、保育の向上を目指す。	B
	・ 職員がチームとなり、情報をしっかりと共有する。	A
	・ 体操については、怪我のないやり方等職員間で園児のレベルをしっかりと共有し、それぞれに合ったやり方を確認しあう。	A
	・ こどもたちが活動に飽きることなく、取り組める環境づくりを目指す。	B

【 総合評価 】

- 異年齢児間の交流の場を増やしていきたい。
- 職員間でこまめに情報共有を行い、子どもの育ちに合わせた援助ができた。
- 初めて担当する学年だったが、職員間で連携を取り様々な経験を積むことができ、充実していた。
- 一年間の成長の過程を大切に、行事等に向けて日々の積み重ねの成果を披露できるようにしたい。
また、年齢に応じた体力づくりや基礎づくりで、段階を踏んだ活動を行いたい。
- 職員への情報発信を確実に行ってほしい。
- 子どもの意欲や興味を引き出しながら、多くの遊びを取り入れていきたい。